

もう12月。今年は時が過ぎるのが殊のほかいつもの年よりも早い。今年は何をしていたのだろうかと半信半疑でも、あと一月で2020年が終わり、新しい年となります。新型コロナウイルスの感染拡大により、計画は大幅に変更しなければなりません。GoToキャンペーンの影響で観光地の人出が回復し、大いに賑わってきて、さあこれからだと勇んで経済活動を活発にしたら、この感染拡大の騒ぎです。GoToだけの影響とは言えませんが、それなりの影響があったと言わざるをえません。新型コロナの感染拡大により、医療機関の逼迫が言われてきており、旅行の自粛や営業時間短縮要請が出されることになりました。今年の忘年会や新年会は実施が不可能となります。7-9月は回復し、10月も鉱工業生産は3.8%上昇で5ヶ月連続のプラス。国内や中国での販売拡大を受け、自動車も6.8%上昇した。自動車は5ヶ月連続のプラスで「(新型コロナウイルス感染拡大前の)1月を上回る水準まで回復した。このように数字も良くなってきていたのに、これで、またダウンするかがっかりです。コロナ強迫神経症に日本人が罹患して、もう10ヶ月、おかげで経済も文化も無残に冷え込んでいます。そろそろこの蟻地獄のようなバカげた自殺行為から這い上がろうではありませんか。小浜逸郎/国士舘大学客員教授の新型コロナの10のウソを下記に掲げます。

- 1.陽性者と感染者と同一視。
- 2.感染者(じつは陽性者)の絶対数の増加をもって感染拡大としている。
- 3.PCR検査を受ければ感染したかしないかがわかる。
- 4.夏に第2波が来て、第3波もこれから押し寄せる。
- 5.新型コロナは恐ろしい死を招く。
- 6.新型コロナは他の病気と比べても猛威を振るう。
- 7.マスクはコロナ感染の予防に役立つ。
- 8.三密による感染を防ぐためにソーシャルディスタンスをとるべきだ。
- 9.コロナに罹っていた人が死亡したらコロナ死。
- 10.欧米のコロナ禍は激甚だった。と言われるように専門家の意見を聞いてもどれが本当かどうか判断が付きません。高齢化の中で新たな症状があります。感染に怯えて閉じこもり衰弱する「コロナフレイル」の危険性が注目されています。老化現象と捉えられていた『フレイル』は健康と要介護の“間”の状態を言います。放置すると寝たきり、認知症など重篤な症状を招く恐れがあるため、早めの医療介入が必要とされています。また、普通の生活が出来ないために心の衰えが目立ってきております。

令和2年分の年末調整では、税制改正に伴い、「基礎控除申告書」「所得金額調整控除申告書」が新設され、「配偶者控除等申告書」と様式が兼用となった「基礎控除申告書 兼 配偶者控除等申告書 兼 所得金額調整控除申告書」になります。新しい申告書は、従業員の給与収入、配偶者や扶養親族の有無などによって記入すべき申告書がそれぞれ異なります。記入もれや記載ミスがないようにいたしましょう。年々、年末調整手続が煩雑化し、従業員の手間や経理担当者の負担も大きくなっています。給与計算事務と合わせて年末調整手続を電子化することで、経理業務の省力化が可能になります。年末調整手続を会社に負わせるのは時代遅れになってきているのではないかと思います。源泉徴収は毎月の分を多めに徴収して、すべての人が確定申告を行い、先に収めた税を還付する方式はいかがでしょうか？ デジタルを活かしてやればできると思う。